

三岐鉄道北勢線のリニューアル事業による新規利用者率の算出

名城大学大学院 学生員 ○中嶋 俊介
名城大学 正会員 松本 幸正

1. はじめに

三岐鉄道北勢線は、近年のリニューアル事業の進捗に伴って、減少傾向にあった乗車人員の総数は増加傾向へと転じており、利用促進策の効果があるように思われる。しかしながら、各駅の定期券による利用の乗車人員数に着目してみると減少している駅もあり、増加している駅よりもリニューアル事業による効果が低いことが考えられる。

そこで本研究では、増加している駅と減少している駅を乗車駅とする利用者の内、リニューアル事業により他の交通手段から北勢線へ交通手段を転換した利用者がそれぞれ何割いるか算出する。さらに、駅前の駐車場・駐輪場の整備といったそれぞれの駅に関する事業と車両の冷房化といった車両に関する事業がもたらす効果の違いを示す。

2. 三岐鉄道北勢線と調査の概要

2.1 三岐鉄道北勢線の概要

図1に、北勢線周辺地図を示す。三岐鉄道北勢線は、三重県桑名市の西桑名駅からいなべ市の阿下喜駅までの13駅を結ぶ鉄道路線である。

北勢線は、経営不振から、平成15年に近畿日本鉄道株式会社から三岐鉄道株式会社へ運営が移管されている。運営移管後のリニューアル計画は、北勢線高速化事業、西桑名駅乗り継ぎ円滑化事業、北勢線近代化事業、その他のリニューアル事業を行うもので、随時実施されてきた。

2.2 調査の概要

本研究では、北勢線対策推進協議会によって行われた調査の結果¹⁾を用いる。この調査は、北勢線沿線の公共交通利用者および北勢線利用者を対象とし、平成19年11月に実施された。調査票は、直接手渡しにて配布され、郵送回収が行われた。配布票数は7,513票、回収票数は1,693票（回収率：13.3%）であった。調査項目は、北勢線への転換の有無とその理由、北勢線に関する利用者の意識等である。

キーワード 地方鉄道 利用促進 駅前駐車場・駐輪場
連絡先 〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501 名城大学理工学部建設システム工学科 TEL052-832-1151



図1 北勢線周辺地図

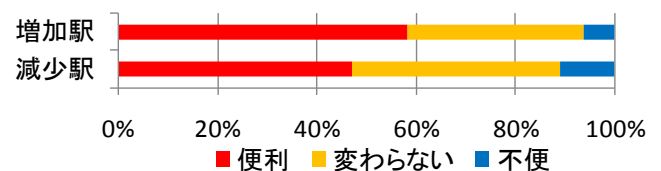


図2 北勢線の利便性に対する評価

3. 駅前駐車場整備による効果

各駅の平成14年度から平成20年度において乗車人員数が増加した駅は、西桑名駅・馬道駅・在良駅・星川駅・大泉駅・楚原駅・阿下喜駅である。減少した駅は、西別所駅・蓮花寺駅・七和駅・穴太駅・東員駅・麻生田駅である。以下、増加した駅を増加駅、減少した駅を減少駅と称する。

「増加駅利用者（増加駅を乗車駅とする定期券による利用者）」および「減少駅利用者（減少駅を乗車駅とする定期券による利用者）」に、北勢線の利便性に対して評価してもらった。評価は「便利（便利になった）」、「変わらない」、「不便になった」の3段階でもらっている。「増加駅利用者」の回答者数は161名、「減少駅利用者」の回答者数は155名である。図2に、回答を集計した結果を示す。「減少駅利用者」が「便利」と評価している割合は、「増加駅利用者」における割合より低いものの、利用者の約半数は「便利」と回答していることがわかる。そこで、何を理由に「便利」と評価したのかを把握する。

「増加駅利用者」および「減少駅利用者」に、「便利」と評価した理由を回答してもらった。回答の選択肢は、実施されたリニューアル事業の内容に関わるものであり、「パーキング（駅前の駐車場・駐輪場の整備）」、「販売方法（乗車券の販売方法）」、「施設整備（駅舎や待合室等の施設）」、「駅移転等（駅の統廃合・移転）」、「運賃（運賃等の制度）」、「冷房化（車両の冷房化）」、「運転本数（列車の運転本数）」、「所要時間」等である。「増加駅利用者」の回答者数は87名、「減少駅利用者」の回答者数は70名である。図3に、回答を集計した結果を示す。「増加駅利用者」、「減少駅利用者」とともに「パーキング」と回答している割合が最も大きいとわかる。

リニューアル事業の利用促進の効果を算出するために、「便利」と評価した「増加駅利用者」および「減少駅利用者」の内、「新規利用者（他の交通手段から北勢線へ交通手段を転換した利用者）」の割合を評価した理由別に集計した。その結果を表1に示す。161名の「増加駅利用者」の内、リニューアル事業を理由に北勢線の利便性が向上したと評価した「新規利用者」は21.1%おり、「減少駅利用者」における11.6%の約2倍の利用促進効果があったとわかる。

リニューアル事業の整備状況は、駅によって異なるため、リニューアル事業による利用促進効果を詳細に把握するには、各駅における「新規利用者」の人数を「便利」と評価した理由別に捉える必要がある。図4に、乗車駅別・評価した理由別の新規利用者数を示す。「パーキング」に着目すると、星川駅、東員駅、穴太駅に「新規利用者」が多いとわかる。駐輪場台数は、星川駅が全13駅の中で最も多く158台、次いで東員駅が多く144台、穴太駅は3番目に多く99台ある。減少駅である東員駅、穴太駅において駅前の駐車場・駐輪場は、最も効果があるリニューアル事業であると思われる。「冷房化」を理由に「便利」と評価した新規利用者数は多くないものの、大泉駅・星川駅・蓮花寺駅・穴太駅・阿下喜駅の5駅で評価されているとわかる。このことから、車両の改善による利用促進効果は多くの駅利用者にあると考えられる。

4. おわりに

本研究では、三岐鉄道北勢線を取り上げ、リニューアル事業開始前後において、定期券を利用する乗

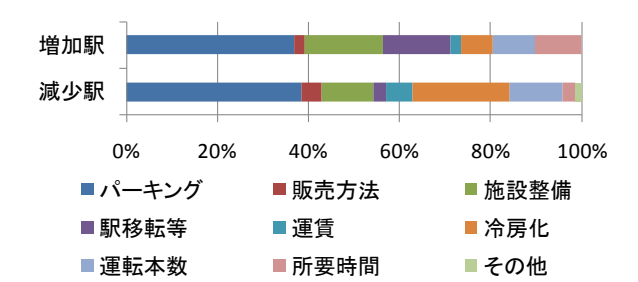


図3 北勢線の利便性を「便利」と評価した理由

表1 利用促進効果の算出結果

	増加駅利用者（161人）	減少駅利用者（155人）
パーキング	9.9%（16人）	7.7%（12人）
販売方法	0.6%（1人）	-
施設整備	1.2%（2人）	0.6%（1人）
駅移転等	3.1%（5人）	-
運賃	0.6%（1人）	-
冷房化	1.2%（2人）	1.9%（3人）
運転本数	1.9%（3人）	0.6%（1人）
所要時間	2.5%（4人）	0.6%（1人）
合計	21.1%（34人）	11.6%（18人）

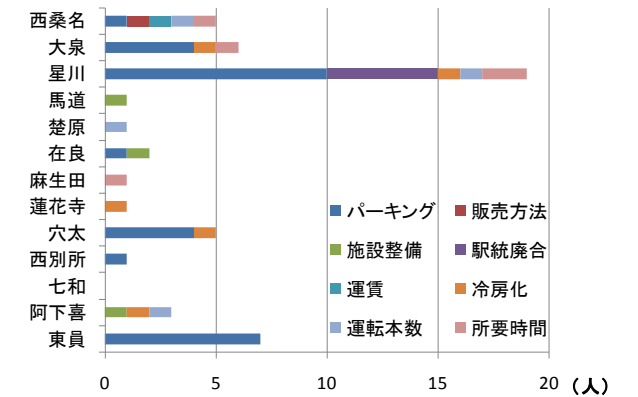


図4 乗車駅別・評価した理由別の新規利用者数

車人員が増加・減少している駅に着目した。そして、リニューアル事業による利用促進効果を各事業において算出した。その結果、増加駅および減少駅において、最も効果のあったものは駅前の駐車場・駐輪場の整備であるとわかった。駅前の駐車場・駐輪場の整備による効果は、整備が充実している駅の利用者に大きいことがわった。車両の冷房化による効果は、駐車場・駐輪場の整備より大きくないものの、全13駅の中で5つの駅で効果がみられた。

参考文献

1) 北勢線対策推進協議会(2008),「三岐鉄道北勢線需要予測報告書」